

(注) 本文書は、印刷物として配布されている「学生募集要項」をインターネットで閲覧できるように暫定的に準備した文書です。正規の「募集要項」「出願書類」などは、本文注意事項に記載されている指示に従い郵送で受け取るか、九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係で11月9日（予定）以降に直接受け取って下さい。

2009年11月4日
九州大学大学院数理学研究院
情報化推進委員会

平成22年度

九州大学大学院数理学府
博士後期課程学生募集要項



1. 出 願 資 格

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成22年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成22年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成22年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成22年3月までに授与される見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 本学府において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成22年3月31日までに24歳に達する者

2. 募 集 人 員

専 攻	コ ー ス	募 集 人 員
数 理 学 専 攻	数 理 学 コ ー ス	8 人
	機 能 数 理 学 コ ー ス	1 2 人

数理学府の全ての教員が両コースの指導を担当する。

3. 願 書 受 理 期 間

平成22年1月13日（水）から同年1月20日（水）午後5時まで
（郵送の場合も1月20日（水）午後5時までに必着のこと。）

4. 選 抜 方 法

修士論文又はこれに相当するものについての考査、学力検査、口頭試問、最終出身大学院が発行する成績証明書によって行う。

5. 学 力 検 査 科 目 等

修士論文又はこれに相当するものについての口演発表（15分）を中心として試問考査を行う。

口演発表にはWindows PCとプロジェクター、書画カメラを使用することができる。

PCやプロジェクターの使用を希望する場合は、予め数理学事務室（092-802-4402）に問い合わせること。

6. 考 査 日 時 と 場 所

専 攻	コ ー ス	月 日	時 間	考 査 方 法	場 所
数 理 学 専 攻	数 理 学 コ ー ス	2 月 9 日（火）	午前10時から	口演発表とその試問	九州大学大学院 数理学府 (伊都キャンパス 数理学研究教育棟)
	機 能 数 理 学 コ ー ス	2 月 9 日（火）	午前10時から	口演発表とその試問	

7. 提 出 書 類

出願者は次の書類を取りそろえ、願書受理期間内に九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係（〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 TEL 092-802-5786（ダイヤルイン））に提出すること。郵送する場合は書留郵便とし、封筒表面に「数理学府博士後期課程願書在中」と朱書すること。

- (1) 入学願書・履歴書・受験票（本学府所定の用紙を使用すること。）
- (2) 最終出身大学院が発行する成績証明書（出願資格(5)又は(6)による者は除く。）
- (3) 修士課程修了証明書又は修了見込証明書（出願資格(5)又は(6)による者は除く。）
- (4) 写真2枚（正面向き・上半身・無帽で、出願前3か月以内に撮影したものを入学願書・受験票の所定の箇所へ貼り付けること。）
- (5) 入学検定料原符（検定料 30,000円）

入学検定料30,000円を次の方法により納付し、入学検定料原符を提出すること。

本要項に綴込みの振込依頼書（「九州大学」入学検定料）の太枠で囲まれている記入欄に必要事項を全てボールペンで正確・明瞭に記入し、A・B・C票を切り離さずに銀行へ持参すること。振込を済ませたら、銀行窓口で返還された書類のうち「九州大学」入学検定料振込金受付証明書（C票）を入学検定料原符の裏面の入学検定料振込金受付証明書貼付欄に貼付し、表面に、専攻名・住所・氏名を記入し、出願書類に同封すること。記入の際は、「出願書類綴」に綴込みの振込依頼書（「九州大学」入学検定料）の記載例及び入学検定料原符・C票「九州大学」入学検定料振込金受付証明書貼付欄の記載例を参照し記入すること。

- 九州大学大学院の学府の修士課程を修了し、引き続き本学府の博士後期課程へ進学する場合等の入学検定料の取扱いについて

次の各号のいずれかに該当する者については、検定料が免除される。

- 1 九州大学大学院の学府の修士課程を平成22年3月に修了し、引き続き本学府の博士後期課程へ進学しようとする者
- 2 九州大学大学院の学府（一貫制博士課程）の2年次を平成22年3月に修了し、修士の学位を授与された後、引き続き本学府の博士後期課程へ入学しようとする者
- 3 九州大学大学院の学府の専門職学位課程を平成22年3月に修了し、引き続き本学府の博士後期課程へ入学しようとする者
- 4 前3号において、修了後1年未満であり、かつ、次のいずれかの条件を満たす者
 - (1) 休学や留学等により修士課程等の修了時期が平成21年度途中である者
 - (2) 秋季入学のため、修士課程等の修了時期が平成21年度途中である者（注意）上記の項目で判断できない場合は、事前に比較社会文化学府等事務部大学院係に問い合わせること。

- ゆうちょ銀行・ATM・インターネットでの振込みはできない。

なお、三井住友銀行本支店にて振込みをする場合の振込手数料は無料となるが、他行から振込む場合は、振込手数料は出願者が負担することになる。

- 振込みは「電信扱」に限る。

- (6) 返信用封筒（長形3号）1枚（郵便番号、住所、氏名を明記し、速達料を含む郵便切手350円分を貼っておくこと。）

（注1）有職者で合格後在職のまま入学する予定の者及び大学院博士後期課程に在学中の者は、上記の外に所属長の受験許可書を提出すること。

(注2) 外国人留学生は事前に九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に問い合わせること。

- (7) 住所票 本要項に綴込みの用紙(シール)に志願者の住所(入学願書の記載と同じ)・氏名を記入すること。
- (8) 修士論文の写又はこれに相当するものの写及びその要旨(A4判1頁)(専門職学位取得者及び同見込者等で修士論文に相当するものが無い場合は研究経過報告書(A4判, 様式自由)を提出すること。)

8. 事前資格審査

「出願資格(5)又は(6)」により出願しようとする者は、出願に先立ち、出願資格の有無「修士の学位を有する者と同等以上の学力」の事前資格審査を行うので下記書類を取りそろえて提出すること。

なお、必要のある場合は面接を行う。

(1) 提出書類

- ① 入学者選抜出願資格認定申請書(本学府所定の様式によること。)
- ② 入学願書(本学府所定の様式によること。)
- ③ 出願資格(5)で出願する者は最終出身大学等が発行する卒業証明書及び成績証明書

①, ②及び③は一括して提出すること。

なお、郵送の場合は書留郵便とし、封筒表面に「数理学府博士後期課程出願書類及び出願資格認定申請書在中」と朱書すること。

(2) 提出期間

平成21年12月2日(水)から同年12月8日(火)午後5時まで
(郵送の場合も12月8日(火)午後5時までに必着のこと。)

(3) 提出先

九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係

(4) 認定の結果

認定の結果は、本人に通知する。

9. 合格者発表

平成22年2月12日(金)午前10時 数理学府研究教育棟玄関前に合格者の受験番号を掲示するとともに本人に通知する。

なお、合格・不合格についての電話による問い合わせには一切応じない。

おって、午前11時以後に数理学府のホームページでも合格者を発表する。

<http://www.math.kyushu-u.ac.jp/>

10. 注意事項

(1) 出願書類などの郵送を希望する者は、郵便番号、住所、氏名を明記のうえ、封筒表面に「大学院数理学府博士後期課程願書請求」と朱書し、郵便切手200円分を貼った角2封筒(タテ33cm×ヨコ24cm)を同封し九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に申し込むこと。

(2) 出願手続後の書類の変更、検定料の払い戻しはできない。

(3) 入学手続きの際に納付する経費等

- ① 入学料 282,000円(予定)
- ② 授業料 267,900円[年額 535,800円](予定)

上記納入金額は予定であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用される。

○ 出願書類における個人情報の保護について

1. 出願書類に記載の個人情報は、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用する。
 - (1) 合格者の住所・氏名等を入学手続業務で利用する。
 - (2) 大学院等の成績証明書を、1年次における授業料免除等の就学支援業務で利用する。
2. 入学者選抜で利用した成績等の個人情報は、個人が特定できないかたちで本学府における入学者選抜に関する調査研究で利用する。
3. 出願書類に記載の個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはない。

博士後期課程各コースの特徴

○ 数理学コース

数学の研究者及び教育者などを目指すために数学理論の探究を行うコースであり、修了者には「博士（数理学）」の学位が与えられる。

○ 機能数理学コース

このコースでは、数学の高度な論理性と汎用性を活かして、将来社会において数理学的立場で活躍するために、幅広い数学的知識を習得し、その社会への適合性の獲得を目指した研鑽を積むことを教育の基本理念とする。修了者には「博士（機能数理学）」の学位が与えられる。このため、次のような実践的カリキュラムが必修単位として課される。

機能数理学特別実習

社会での実務体験によって数学の活かし方とその意義を理解し、十分な社会への適応性を培うことを目的とした、企業等への長期インターンシップ（3カ月以上）

機能数理学特別講義

社会の最前線で数理学的業務に従事する研究者・技術者による実践的講義

コース間の移動は原則として認めないが、特別な場合は申請により教務委員会で審議する。

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744
九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係
TEL. 092-802-5786（ダイヤルイン）

九州大学大学院数理学府概要

【教 授】

(平成22年4月1日の予定スタッフ)

教 員 名	研 究 指 導 内 容
穴 井 宏 和 *	数値数式ハイブリッド計算, グレブナ基底, 代数生物学
岩 崎 克 則	複素幾何学, 力学系, パンルヴェ方程式
岩 瀬 則 夫	トポロジー, 代数的位相幾何学, ループ空間
翁 林	代数幾何学, 数論的幾何学
栄 伸一郎	非線形解析, 漸近展開, 反応拡散系
長 田 博 文	確率論, 拡散過程の均質化, フラクタル, 無限粒子系
落 合 啓 之	代数解析学, 表現論, 特殊関数
隠 居 良 行	関数解析的手法による非線形偏微分方程式の数学解析, Navier - Stokes方程式
梶 原 健 司	非線形可積分系, パンルヴェ系, 離散・超離散力学系
金 子 昌 信	整数論, 保型形式
川 崎 英 文	最適化, ゲーム理論, 折り紙の数理
川 島 秀 一	非線形偏微分方程式, 数学解析
小 池 正 夫	整数論, 保型形式, 有限体上の特殊関数
幸 崎 秀 樹	作用素論
小 西 貞 則	情報量統計学, 多変量解析, 計算機統計, 生命情報統計学
佐 伯 修	位相幾何学, 微分トポロジー, 特異点論, DNA結び目
佐 藤 榮 一	代数幾何学, 射影空間, ベクトル束
白 井 朋 之	確率論, ランダム行列, ランダム場
谷 口 説 男	確率解析, 確率微分方程式, 確率振動積分
辻 井 正 人	力学系理論, エルゴード理論
手 塚 集	計算統計, 一様分布論
中 尾 充 宏	数値解析, 精度保証付き数値計算, 計算機支援解析学
西 井 龍 映	学習理論, パターン認識, 統計学
野 村 隆 昭	幾何学的調和解析, 等質ジージェル領域, 非結合的代数
原 隆	数理物理学, 確率論モデルと臨界現象, 場の量子論と臨界現象
福 本 康 秀	流体力学, 渦運動, 電磁流体力学
前 園 宜 彦	統計的推測の漸近理論, ノンパラメトリック推測
松 井 卓	無限次元空間の関数解析
森 下 昌 紀	数論的位相幾何学, 素数と結び目, 代数体と3次元多様体
吉 田 正 章	解析的常微分方程式
若 山 正 人	表現論, 跡公式, ゼータ関数
綿 谷 安 男	作用素環論, 作用素論

* 富士通研究所よりの招へい教授

【准教授】

(平成22年4月1日の予定スタッフ)

教 員 名	研 究 指 導 内 容
石 井 豊	力学系理論, カオス, 複素力学系
植 田 好 道	自由確率論, ランダム行列, 作用素環論
大 津 幸 男	微分幾何学
神 本 丈	複素解析
木 村 正 人	応用数学, 数理モデル解析, 自由境界値問題
権 寧 魯	数論, 保型形式, 跡公式
今 野 拓 也	整数論, 保型形式, 表現論
高 瀬 正 仁	近代数学史, 多変数函数論, ヤコビ関数, 虚数乗法論
田 上 大 助	数値シミュレーション, 計算手法の誤差評価, 計算機援用設計
田 口 雄一郎	整数論, ガロア表現, 代数体, 函数体
竹 田 雄一郎	トポロジー, 数論的幾何学
趙 康 治	代数幾何学, 複素微分幾何学
長 藤 かおり	無限次元固有値問題, 数値的検証法, 誤差解析
長 友 康 行	微分幾何学, モジュライ空間の幾何学, 調和写像
中屋敷 厚	代数解析, 可積分系
新 居 俊 作	力学系, 微分方程式, 応用解析
二 宮 嘉 行	非正則モデルの統計理論, 生物統計学
百 武 弘 登	多変量統計解析, 逐次統計解析
廣 島 文 生	場の量子論, スペクトル解析, スペクトル散乱理論
増 田 俊 彦	作用素環
丸 山 修	バイオインフォマティクス, アルゴリズム, 情報科学
水 町 徹	非線形偏微分方程式, 孤立波の安定性
溝 口 佳 寛	ソフトウェア科学, グラフ変換理論, 計算理論